

研究者氏名：坂元 美香

調査・活動テーマ：半田市中心市街地における世代間交流について

調査・活動の目的

半田市の中心市街地の活性化を世代間交流を基盤にして調査する。いわゆる我々の想定する世代間である10代、20代はじめの学生と、20.30代の社会人の交流を産むことにより、両者の意識の変化の芽生えや、お互いの認識を深め合う。

調査や活動の取組内容および達成状況・成果内容

一年を通して、半田市の中心市街地（知多半田駅周辺など）で様々な活動を行い、テーマについて検証し、自分たちなりの考察を深めてきた。活動は、自身が所属する「はんだ U22 研究所」(※1)のメンバーで行った。

※1 「はんだ U22 研究所」とは、半田市のまちをよりよくしたいと集まった高校生・大学生たちの活動団体

5月に、中心市街地活性化に携わる市役所職員や自営業者などがあつまる蔵のまちネットワークの方々に中心市街地の活性化と若者に関するアンケート調査を実施。アンケート調査を通して、地元の若者と地元で活動する大人たちの交流の場や共にアクションを起こす機会やきっかけを設けるべきだと感じ、大人から見た中心市街地の活性化への課題から、若者目線で出来る事を抽出した結果、世代間交流というテーマに決定した。

9月には「ごはんだ！半田」という、SNS投稿キャンペーンをおこなった。Instagramをつかって、半田市内の飲食店の情報の投稿を促し、不足気味であった半田市(特に知多半田駅周辺)の飲食店の情報を充実させた。(投稿が優れていた人に送る、クラシティ半田で利用できるお食事券の景品は、株式会社トロワ・アバンセ様から協賛をいただいた。)投稿数や閲覧数から、市内飲食店へ貢献できたのではないかなと思う。メンバー内で企画や広報、渉外などを手分けして行った。

9月に、地元の若手社会人の話を聞いたり、話をする「なるほどキャリア」という企画を実施した。

世代の近い大人から仕事のこと、生き方などを聞く貴重な機会となった。

10月に「ハロウィン企画」として、半田市のダンスイベントが企画する「DANCE MIX」の学生と連携してハロウィンの日に知多半田駅前でフラッシュモブ(※2)を行った。地元の他団体の学生と共同で企画をすることができ、交流の輪が広がった。

※2 フラッシュモブとは、不特定多数の人々が申し合わせ、雑踏の中の歩行者を装って通りすがり、公共の場に集まり前触れなく突如としてパフォーマンス(ダンスや演奏など)を行って、周囲の関心を引いたのち解散する行為

12月に「クリスマスツリー企画」として、クラシティ半田の窓にマスキングテープなどでクリスマスツリーをつくり、クラシティ半田を利用する人に参加してもらった。

優れた効果・成果があがった点

「ごはんだ！半田」の企画を通じて、市内飲食店のPRに資することが出来た。学生でどれだけ活動ができるか、行動できるか確認することが出来た。普段の学生生活がある中で、短期間で企画から実行までをやり遂げるには綿密な計画と、仲間内でのコミュニケーションが重要と感じた。

学生もまちづくりに参加するにあたって、単体ではなく、地元で活動する大人たちとのネットワークの必要性を感じた。

委嘱期間終了後の今後の展望

今後も、はんだ U22 研究所での活動のみならず、半田市に住む市民として、まちづくりに携わっていきたい。学生を卒業しても、学生の地域での活動の場や可能性を自らの経験などから引き出していく手伝いを積極的にしていきたい。